ア Z 「SEED DESTINY」

アビスガンダム

機体名	アビスガンダム	画像
型式番号	ZGMF-X31S (強奪後はRGX-02)	
英語名	ABYSS GUNDAM	
所属	ザフト軍地球連合軍 (地球軍特殊部隊)	
パイロット	アウル・ニーダ、マーレ・ストロード	
装甲材質		
装備	頭部機関砲：MMI-GAU25A 12.5 ミリ CIWS 胸部機関砲：MMI-GAU25A 20 ミリ CIWS 胸部ビーム砲：MGX-2235 カリドゥス 複相ビーム砲 肩部シールド魚雷：MMI-TT101M k 高速誘導魚雷 肩部シールド砲：M68 連装砲 肩部シールド内ビーム砲：MA-X223E 3 連装ビームガン 肩部シールド内レールガン：MMI-M15E クスィファイアス改 レールガンビームランス：MX-RQB516 ビームランス	
作品名	機動戦士ガンダム SEED DESTINY	
参考書籍	1/144 アビスガンダム箱書き MIA	

内容

1/144 アビスガンダム箱書き

アーモリーワンで地球軍特殊部隊「ファントムペイン」の手により強奪されてしまったザフトの最新鋭 MS 群「SecondStage」(新世代)シリーズの一機。

以後、同部隊員アウル・ニーダの搭乗機となる。

アビスガンダムは多くのビーム兵器やランス等を装備し、水中戦闘に特化した能力を持っている。

その長槍は海ゆく者達を深淵へと引き摺り込む。

MIA

CE72 年 3 月 10 日に結ばれた停戦協定・ユニウス条約に盛り込まれたさまざまな制約が、ザフト・地球連合の両軍に新たな MS 開発を行わせる結果となった。

ユニウス条約には核エンジンの使用を禁止する「N ジャマーキャンセラーの使用禁止」の条項をはじめ、ミラージュコロイドの使用禁止、MS 保有機数の両軍での制限などが含まれ、世界は軍縮の方向に動き始める。

そしてこのユニウス条約が、両軍の兵器開発に大きな影響を及ぼす。

「制約の中で最大限の効果を発揮する機体」の開発、たとえば制限機数が 100 機であれば 1 機で 3 機に相当する性能の機体を開発するといった開発スタンスのシフトが行われていくのである。

このような状況下でザフトが提示した開発プランが、ザクを始めとする主力機開発計画「ニューミ

レニウムシリーズ」とフリーダム・ジャスティスに次ぐ新たなガンダム開発計画「セカンドステージシリーズ」である。

インパルスに代表されるセカンドステージシリーズでは「デュートリオンビーム送電システム」など1機で戦局を左右するような革新的な技術や装備が搭載されている。

アビスガンダムはセカンドステージシリーズのMSのうち、水中用MAにも変形可能な機体として開発され、MA形態での独特な流線型のフォルムは、防御力を高めるとともに水の抵抗を受け流す効果を狙ったものである。

白兵戦用のビームランス・胸部のカリドゥス複相ビーム砲・肩のシールド内に3連装ビーム砲など多彩な武装が施されているために汎用性は高く、水中戦に限らずさまざまな戦局に対応可能なMSである。

型式番号には水中戦タイプを示す「3」が付けられている。

備考

スペック

項目	内容
全高	17.84m
頭頂高	
全長	
本体重量	92.39t
全備重量	
ジェネレーター出力	
スラスタ推力	
センサ有効半径	